

## またもや、米国が非公表による核実験断行！ 米国による核実験に満腔の怒りを込めて糾弾！

### 米が新型核性能実験

昨夏3度目 プルトニウム使い

【ワシントン＝共同】米エネルギー省傘下の核安全保障局（NSA）が核兵器の性能を調べるため、ニューメキシコ州のサンディア国立研究所で昨年夏、プルトニウムを使った新たなタイプの実験を実施していたことが五日分かった。二〇一〇年十一月と昨年三月に続き三回目。

「核なき世界」を提唱してノーベル平和賞を受賞したオバマ大統領だが、自国の核兵器を維持する姿勢に批判が強まりそうだ。

この実験は核爆発を伴わない点で臨界前核実験と同じだが、核実験場や火薬を使わない

サンディア国立研究所



東京新聞・1月6日・夕刊

米国エネルギー省の国家核安全保障局（NSA）は、昨年11月16日に臨界前核実験を、またもや非公表で強行していたことが、1月6日マスコミ報道で明らかになりました。核実験はいかなる理由があろうとも許されるものではありません。核実験の強行は、オバマ大統領のプラハ演説での「核なき世界」の提唱と、そのことに対するノーベル平和賞受賞とは全く相容れない行為です。

JR東海労は、今回の核実験を満腔の怒りを込めて糾弾します。米国は「保有する核兵器の安全性を確認」と目的を明らかにしていると報道されていますが、軍事力強化の優位性をはかることが狙われているのであり、核戦争の危機を誘発する以外何ものでもありません。

私たちは、福島第一原発事故によって「核と人類の共存できない」ことを再認識しました。あらためて、核廃絶、反原発を訴え、あらゆる戦争政策に反対し闘うことを表明します。

理に関する報告書などによると、実験は世界で最も強いエックス線を発生させる「Zマシン」という装置によって、核爆発に近い超高温、超高压の状態をつくり、核兵器の材料となるプルトニウムの反応を調べた。

最後に地下核実験を一時停止する一方、冷戦期に製造した核兵器が正常に作動するかどうかを、核実験を行わずに確認できる技術の確立に力を入れている。

九七年から臨界前核実験を続けているほか、一〇年からZマシンを使った実験も始めた。

NSAの核兵器管

米国は一九九二年を